

入野小学校 校長室だより

2014. 11. 7(金) No. 25 文責：芝

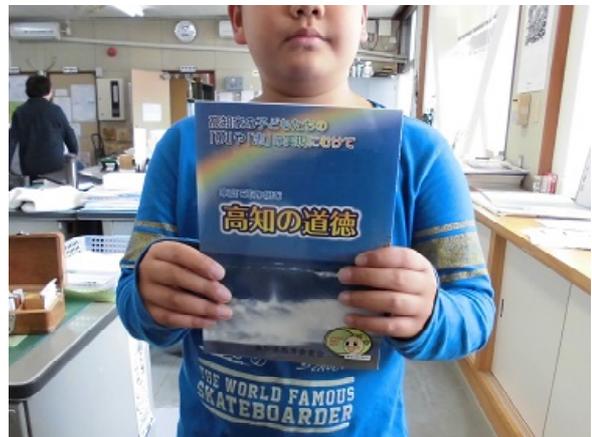
江戸しぐさ・大方らしさ

10/17(金)の参観日の時に、山沖教頭先生が『高知の道徳』という冊子を紹介しました。これは「子どもたちの心や人間性を育むために役に立てほしい」と、県教委が家庭での活用を前提に作成・配布したものです。山沖先生が紹介した時には、特に感想などはいただかなかったのですが、数日後、「子どもといっしょに読んだ」と話して下さった方がいたとのこと、とてもうれしく思い、そのお母さんの目にとまったところを私もさっそく読んでみました。その中で、「いいなあ」と特に感じたのが下に紹介した『江戸しぐさ』。『江戸っ子』たちは、自分たちのしている気配りを、自分たちが住んでいる『江戸』の名をかぶせて行っていた…、たぶん、それに誇りを持っていたのでしょうね。そんな行為をさりげな

く行うのが『江戸っ子として粋な姿』だとしていたのかもしれませんが。

いいなあと思いつつも、「何でもかんでも東京かよ」と少々斜に構えたい部分もありますが、「ええものはええ、いかんものはいかん」と『大人の分別』で、私たちも生活の参考にしていきたいものです。

ちなみに、本はこんな表紙(下の写真)です。ぜひ、ご覧になってください。(ネットでも公開する関係で、顔を大きく写した写真はNGです。モデルさん、ごめんなさい。)



私たちの地域にも、『〇〇しぐさ』というようなインパクトのある名前がついていなくても、生活の中に根付いた気配りの習慣があるのではないのでしょうか。その地域に伝わる取り決めの中にも人間関係を円滑にする目的のものも含まれているかもしれません。ただ、生活に溶け込みすぎて・当たり前すぎて意識していないとか、もしかしたら生活の変化のために知らないまま・意識しないまま消滅したのものもあるだろうと思います。人生の先輩方のお力添えをいただいて、そのような私たちの地域の知恵を発掘できたらいいですね。そして、それが地域の誇りを再認識する機会になれば、更にうれしいことだと思います。

発掘(?)したいことをもう一つ。この地域らしい風景・この地域の誇れる様子は何でしょうか。そんな「入野小八十八景」のようなものも見つけないかと思っています。

「江戸しぐさ」って、聞いたことがありますか?

『江戸しぐさ』は、江戸時代(約150~400年前)の商人たちが、争いを未然に防ぎ、みんなが気持ちよく暮らせるために生み出した生活習慣です。それが一般の人たちの間に広がり、定着したと言われています。「江戸しぐさ」は、思いやりをカタチにした世界に自慢できる日本人の心なのです。

<p>【こぶし浮かせ】 しぐさ</p> <p>渡し舟や茶屋の縁台に座る時一人でも多くの人が座れるように、あとから来た人のために、ふしつ分際を浮かせて席をあげるしぐさが自然になされていきました。</p>	<p>【もつたい大事】 しぐさ</p> <p>江戸では、ものや時間を大切に使うことを「もつたい大事」と言いました。分たいてうりサイクル手たつたわけですものを作った人の感謝の気持ちも込められています。</p>	<p>【うかつ謝り】 しぐさ</p> <p>うっかり人の足を踏んでしまった時、踏まれたほうも、「こちらこそうっかりしてしまいました」と謝ります。お互いに謝るから、空気がトゲトゲしません。</p>	<p>【七三の道】 しぐさ</p> <p>江戸では、道の真ん中を歩くのではなく、自分が歩くのは道の七割にして、あとの三割は急ぐ人のために空けておくことをみんなが心掛けていました。</p>
---	--	--	--